

4月講演会のご案内 海洋会・横浜支部長 齋藤徹郎

日韓の大型フェリー横転の共通点から、事件の真相に迫る！！



乗員の救助作業が続く傾いたフェリー＝三重県熊野市の沖合約1400メートル付近の海上で2009年11月13日午前8時50分、第四管区海上保安本部提供
以下毎日新聞 2009年11月13日



2009年11月13日、三重県沖を航行していたマルエーフェリー「ありあけ」が約4mの横波を受け、船内3200トンの貨物が荷崩れを起こし船体が傾斜し復原不能になった。しかし自力航行が可能だったため、海上保安庁に救助要請を行い、陸地に近づくべく進路を変更した。

2014年4月16日午前8時58分頃、韓国仁川の仁川港から済州島へ向かっていた、清海鎮海運（チョンヘジンかいいうん、청해진해운）所属の大型旅客船「セウォル（世越: SEWOL）」が、全羅南道珍島郡の観梅島（クワンメド）沖海上で転覆し、沈没した。

フェリーは貨客船であり、「自動車専用船」とは分類上異なる。倒れ難い車両のみの長距離フェリー(片道300km以上の航路に就航しているフェリー)と、傾斜で滑り易いコンテナと車両を積載する、内航RORO型貨客船の違いを理解していなかった為の横転事故だろうと推察します。

開催日時：平成27年4月14日(火)18:00～19:00

講師：佐久間 誉氏(TN16)

場所：海洋会館 3階会議室

その後、懇親会(会費 2千円)が予定されています。

なお、講演会及び懇親会へのご参加にあつては、下記連絡先宛に4月9日(木)迄に、FAXまたはE-mailにて、ご連絡頂きます様お願い申し上げます。

FAX 045-201-7785 E-mail: yokohama@kaiyo-kai.com